

審議会等議事概要

令和6年度 第2回滝川市子ども・子育て会議 議事概要

日時	令和6年8月2日（火曜日）午後2時30分～午後4時00分
開催場所	滝川市役所 8階 大会議室
出席者	栗井康裕会長、原修二委員、皆川あゆみ委員、猪股旬雄委員、鈴木敏之委員、種田貴志子委員、高谷富士雄委員、濱本有未代委員、 （欠席 福田朗委員、船奥保委員、齋藤真弘委員、芳村元悟委員、山内祐子委員、佐藤幸恵委員、宮本賀子委員） 事務局：鎌田保健福祉部長、景由保健福祉部次長、高橋子育て応援課長補佐、伊藤子育て支援係長、菊地こども家庭相談係長
議事	<p>1. 開 会</p> <p>2. 国学院大学課題解決型学習 研究成果発表</p> <p>＜国学院大学北海道短期大学部総合教養学科学生 2グループより、今年度実施された課題解決型学習による「こども・若者・子育て当事者にとって 居心地の良いサードプレイスってなんだろう？」をテーマとした研究成果の報告を行っていただいた＞</p> <p>3. 各種アンケート調査の結果報告</p> <p>＜事務局より資料1に基づき説明 以下要旨＞</p> <ul style="list-style-type: none">・本年6月から7月にかけて実施した 5つのアンケート調査の速報値について、概要を説明する。・なおこの結果は、急ぎ単純集計を行った未定稿の速報値として、現時点では、委員限りの配布とさせていただきます。・先の「国学院大学学生による調査研究」、この「各種アンケートによる定量的な調査」、そして「滝川市子ども・子育て会議による定性的な調査・研究」などをもとに「(仮称)滝川市こども計画」を策定していく。 <p>＜質 疑＞</p> <p>委員)「家族のお世話」に関する質問の結果について、いわゆるヤングケアラーに関するものとして、どのように受け止めているか。北海道の結果と比較してどうか。関係機関と連携してしっかりと対応してほしい。</p> <p>事務局) お世話の程度にもよるが、お世話により「時間的余裕がない」との回答がある。この部分については、支援の対象となると考えている。滝川市でも2年前実施した調査で、北海道と同程度の割合で、ケアラーがいると考えている。この計画の中でも、検討を深めていきたい。</p> <p>4. 協 議</p> <p>重点目標（政策）について</p> <p>＜事務局より資料2に基づき説明 以下要旨＞</p> <ul style="list-style-type: none">・本日の協議は、「(仮称)滝川市こども計画」の期間となる5年間、特に力を入れて取り組むべき分野について、ご意見を伺いたい。・事務局からは以下の2点について、重点として取り組みたいと考えている。・1つは、国学院大学の学生にも研究を行っていただいた分野である「こども・若者・子育て当事者にとって居心地の良い居場所づくり」で、こども・若者・保護者にとって安心して、ほっとできるような居場所の充実に重点をおきたい。

・もう一つは、「親子関係形成・非認知能力の育成」として、核家族化・都市化により、祖父母や親戚、ご近所の助けが得られにくくなり、子育て力の低下や子育ての孤立化が進んでいる中、令和4年児童福祉法改正により新設された「親子関係形成支援事業」などを活用して、家庭における「親子関係形成」として、ペアレントトレーニングを通して、こどもの「非認知能力の育成」につなげていきたい。

・本日は、この二つにとられることなく、本日は、委員みなさまのお立場から、日頃から感じられている「こんなことに力を入れるべき」といったご意見をいただきたい。

<協議>

委員) 居場所づくりについて、子ども・若者・子育て当事者の居場所を一緒にするのではなく、別々にすべきものも多くあると考える。こういった部分はアンケートなども分析して考えるべき。

委員) 事務局からの提案のあった2点には、唐突な感じがする。よく報道等で耳にする子育て支援とは異なると感じるが、これがトレンドなのか。

事務局)トレンドというか、私たちが日頃感じる課題である。個々のレベル感に違いがありニーズは様々ではあるものの、例えば、相談相手のいない方であったり、虐待までは至らないものの子育てに悩みを持たれている方などにとっての居心地の良い居場所の必要性を感じている。また、非認知能力については、子どもをどう育てていくのかということで、IQなどではない、数値化できない力なども伸ばして、評価できる地域になれるよう、難しいことではあるが、どのような施策ができるのか、委員のお知恵を借りて具体化できればと考えている

委員) 子育ての経験不足といわれるが、どの親にとっても、子育ては完璧にいかないし、どれだけ学んでもその通りに子どもは育ってくれないものであると思う。

委員) 予算もたくさんかかるため夢物語かも知れないが、駅前の施設にカフェがあり、学生たちが勉強できたり、子ども達が遊ぶことができる場所ができて、その場所に子育て応援課の職員がいて、気軽に相談に応じたり、保育士たちがそういうものを感じ取ったりできるような場があればと思う。非認知能力については、いろいろな勉強会が開催されていると思うが、保健師さんたちからは、勉強会に来られない方に聞いてほしいという声もある。なので、高校生の時代から命を授かる奇跡というものを学んでほしい。非認知能力の育成というのは難しいですが、私たちもその環境整備から取り組んでいこうと考えている。

委員) 相談機能の充実が大事ではないか。保護者はどこに相談して良いかわからない場合もある。また、今もあるとは思いますが悩みを引き出す部署が重要で、それがどこなのか、しっかりと表に出す必要がある。また、それぞれの部署では上手くいっているのかも知れないが、横の連携が果たして上手くいっているのか。教育委員会や子育て部署との連携など、地に足の着いた行動が大事だと思う。

委員) この管内でも、高卒の方の就職3年以内の離職率が40%台と高い。この方たちは、卒業後、全く専門性もなく職場に放り込まれることとなる。このようなことから関係している機関の人材育成が繋がって、そして企業がどのように受入体制を作っていくか。非認知能力の育成といった話しともつながっていると思うが、そういう所もしっかりと進めてほしい。

委員) 非認知能力の育成という面では、学習指導要領でも学びの関係性として、周りとうどう関われるか、力をつけることが学校における役割として求められる。この計画は5年計画とのことであるが、VUCAの時代においては、5年後の想像もつかないので、5年ではなく常にブラッシュアップしていくことが必要。幼少期から続ける非認知能力の育成は重要であるが、色々な考えがあり、それぞれバラバラのベクトルで取り組んでいるといったもどかしさがある。子どもまん中のウェルビーイングを考える機会となれば良いと思う。

委員) やるからには、こういった様々なものが子育て世代に幅広く知ってもらえるよ

	<p>う繰り返し周知していくことが必要だと思う。また、この議論が具体化していない中での周知は難しいかもしれないが、このような話し合いをしていることも知ってほしい。様々な事業や支援施策を対象に知ってもらうことが大事だと思う。</p> <p>委員長)他に意見はないようなのでまとめると、2点の重点については大きな部分では了承いただいたと思う。難しい部分があることや、どう具体化するかといった部分については、今後も議論を進めていくこととする。細かい部分については今後の議論となるが、連携が必要であること、周知が必要であることなどのご意見も踏まえつつ、大きな部分は賛成を得たということで進めていく。</p> <p>5. その他</p> <p><事務局より参考資料に基づき説明 以下要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回会議では、本日いただいた重点目標についてのご意見を整理した上、その目標に対し、どのように取り組むか、具体的な事業について協議を行いたい。 ・また、政策調査研究部会の設置についても、協議・了承をいただきたい。 ・第3回会議は、8月下旬開催予定で、日程については追って連絡させていただく。 <p>6. 閉会</p>
会議資料	資料 令和6年度第2回 滝川市子ども・子育て会議資料